全酪連会報 2

2023 FEB No.689

若手後継者の本音／服部 悠允さん、晨光さん

品質保証室だより／令和4年度 食品事故情報

酪農を支える人材育成事業 全酪アカデミー

酪農業に対する理解醸成活動報告3

日本酪農見て歩紀／合同会社榎本牧場
（山口県岩国市錦町）

酪農トピックス／代々木が乳々木に!?「らくのうマルシェ」が２か月連続開催!!（酪農部）ほか

人事異動

ZENRAKUREN

全国酪農業協同組合連合会

今回は、北海道浦河町 服部牧場の後継者 服部悠允さん・晨光さんにお話を伺いました。

この度ご紹介します服部牧場は、北海道を代表する観光地「えりも岬」から約50kmの太平洋沿岸の町、競走馬の産地として知られる浦河町にあります。所属するひだか東農業協同組合は生乳出荷戸数11戸、生乳生産量2，300t（令和3年度）となっています。今回お話しをお聞きしたのは、服部悠允（ゆうすけ）さん・晨光（あきひこ）さんご兄弟です。

自然に決めた就農　だんだん面白く

兄の悠允さん（24歳）は平成29年、弟の晨光さん（23歳）は平成30年にそれぞれ高校卒業と同時に就農しました。お二人が中学生の頃にご家族の怪我がきっかけで牛舎を手伝うようになり、地元高校卒業までの数年間、朝の搾乳が日課となりました。そのため悠允さんにとって就農は自然と決めたことだったそうです。晨光さんは高校卒業後には別の進路に進むことも考えていましたが、ご家族との話し合いの末に就農を決めました。最初は酪農にあまり興味がありませんでしたが、だんだんと面白くなってきて今は「すごくやる気がある感じ」と語る晨光さん。〝難しいところ〟が面白いのだそうです。同じように仕事をやっているつもりでもその年によって結果が違う。答えのない仕事は面白い。取り組んだことは形になるし、日々工夫ができることは楽しい、と悠允さんも感じているそうです。技術的なことは経営主であるお祖父様と月に1回訪問するコンサルタントから指導を受けながら、ほとんどの作業をお二人で協力してこなしています。

▲ 服部悠允さん（左）と晨光さん（右）ご兄弟

試行錯誤しながら進む

服部牧場はお二人の曽祖父様が始められました。悠允さんと晨光さんは4代目となります。現在の経営主はお祖父様で、飼養頭数は搾乳牛35頭を対尻式つなぎ牛舎で管理しています。「うちの牛はおとなしく、初産でもほとんど足を上げる牛はいない。少し自慢できるところです。」と言う晨光さんの言葉のとおり、牛舎に入れていただくとほとんどの牛が横臥し、見知らぬ人間にも驚くことなくゆったりと反芻していました。牛舎は築50年ほど経過しているため作りが古く、牛が飼槽に足を入れてしまう悩みがありましたが、コンサルタントからの指導を受け昨年6月にもくしからタイストールに変更したところ、牛の行動が抑制されて衛生環境が上がったそうです。育成牛は30頭で、年間8頭ほど販売してきましたが、昨年はなかなか販売できませんでした。収入面では厳しかったということですが、その分牛群を更新することで将来に備えました。

草地は牧場の周辺30haを有しています。数年前まで鹿の害により収量が安定しませんでしたが、電牧と罠で根気強く対策したところ減少し、同時に畑の状態も改善してきたことで、昨年は悪天候にもかかわらず全量自家牧草でまかなうことができました。施肥はすべて自家たい肥と消石灰のみでまかなっています。お二人が知る限り化学肥料は使用したことがないそうで、その分添加剤や切り返しにより良質なたい肥作りを心掛けています。購入飼料に頼った時期もありましたが、自家産の良質な牧草を給与できるようになり、牛群の状態も良くなったそうです。

このような日々の勉強と試行錯誤の積み重ねの結果、服部牧場の乳量は昨年より1，200kgほど増加しました。死亡牛はあったものの、乳房炎が減ったことが大きいそうです。「牛を見る回数を増やして、細かいことに気が付くようになった。飼い方が少しずつ良くなってきたのかなと実感している。」とのこと。牛を観察し、良い兆候も悪い兆候もサインを見逃さないように取り組まれています。〝答えのない仕事は面白い。取り組んだことは形になるし、日々工夫ができることは楽しい。〟とはこのことなのですね。

▲ 牛舎全景　老朽化は進んでいるが、大切に使用している

若手後継者の本音 Vol.61

［経営概況］
所　　属　ひだか東農業協同組合（笹島政信代表理事組合長）
家族構成　服部悠允（ゆうすけ）さん・服部晨光（あきひこ）さんご兄弟、お祖父様の昌典（あきのり）さん、お祖母様のタマさん、お母様の章子（あやこ）さん、妹の菊水（ひな）さん
飼養頭数　搾乳牛35頭、育成牛30頭

試行錯誤で酪農を楽しむ兄弟経営

将来に向けて 規模拡大しても牛を大切に

お二人の平均労働時間は10時間／日ほど。隣町と合同のヘルパー組合に所属し年間12日程度ヘルパーを利用して交代で休みますが、酪農は日常生活の一部、と捉えているお二人にとって今は余暇の時間はそれほど重要ではないようで、休日も酪農の知識を吸収し実践したいと思っています。地域に酪農家が少なくなかなか勉強の機会がないことが悩みですが、それでも勉強会はオンラインではなく実会場に足を運び、熱感も感じたい、と晨光さん。酪農を学ぶことを楽しんでおられるのだと感じました。新しい技術にも意欲的で、自家育成牛で続いてきた牛群をゲノム解析して改良していきたいとも考えているそうです。

現在服部牧場は設備投資や購入飼料費を抑えつつ、良質堆肥を使った循環経営をしています。飼養環境が改善し乳量も増加してきており、当面は兄弟でこの規模を維持していきたいと考えていますが、一方で老朽化が進む牛舎設備の更新も考えていかなくてはなりません。将来の大きな投資に備えて、まずは草地更新等により収量アップを図りながら、経営のバランスを崩さないように無理のない規模拡大をしていきたいと考えています。規模拡大にあたっては、牛1頭にかける時間を減らさないために、同時に給餌機等の機械化も進めていきたいそうです。「牛を大切に、畑に合った乳量を求めていきたい」と言う悠允さんの言葉が印象的でした。

悠允さんと晨光さんは取材時も阿吽の呼吸で質問に答えてくださり、牧場を見せていただいた際も、日頃から協力して作業に取り組んでいる様子が伺えました。若いお二人が基本に忠実に営む服部牧場は、現在の状況を乗り越えて今後ますます発展していくことと感じました。この度はお忙しいところ会報取材にご協力くださり、ありがとうございました。

▲ 搾乳牛舎　ゆったりとリラックス

▲ 育成牛舎　搾乳牛舎を改築しているため、更新を考えていきたい

▲ 積雪も少なく比較的温暖なため、冬場も日中は育成牛を放牧

▲ 牧草収穫はすべて自分たちで

▲ H12事業で設置したたい肥場
良質なたい肥生産を心掛けている

全国の若手後継者の皆さんへ 一言！

若い生産者が頑張っていると自分たちにも刺激になります。今は耐えるしかないので、お互いにがんばりましょう！

令和4年度 食品事故情報

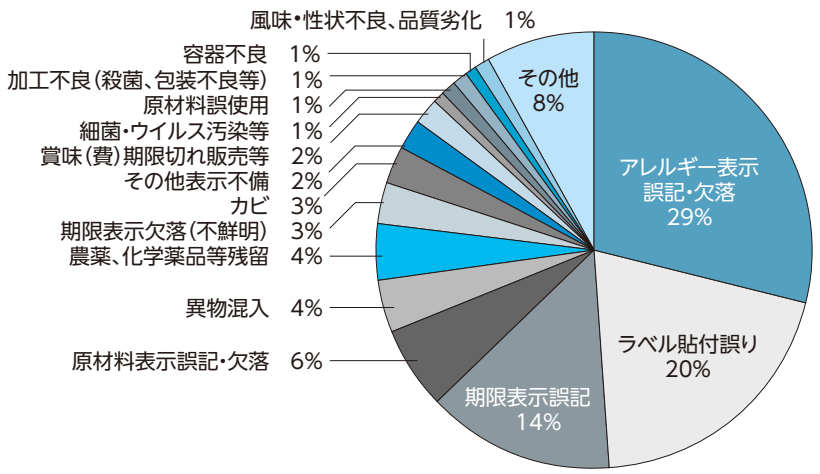
消費者庁の専用サイトや、業者による開示サイトより、毎月の食品事故情報を調査しておりますが、今回は前年1月～12月（令和4年次）のこれまでの食品リコールの情報を取りまとめしてみます。

1 全リコール情報

【注意】 リコール情報が開示されていないものを含まない。

■ 2022年度　食品事故情報

事故原因	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	share	平均件数／月
アレルギー表示誤記・欠落	58	58	81	57	85	88	78	73	78	80	91	87	914	29%	76.2
ラベル貼付誤り	56	38	62	43	64	68	62	34	60	52	53	30	622	20%	51.8
期限表示誤記	31	28	33	27	39	28	52	51	40	39	42	33	443	14%	36.9
原材料表示誤記・欠落	6	11	8	11	9	27	32	17	23	10	17	11	182	6%	15.2
異物混入	7	8	4	6	9	12	12	11	14	8	13	8	112	4%	9.3
農薬、化学薬品等残留	10	8	5	2	9	13	13	5	9	14	12	12	112	4%	9.3
期限表示欠落（不鮮明）	5	7	2	8	9	13	7	12	5	4	18	15	105	3%	8.8
カビ	3	4	3	2	7	6	10	14	14	11	7	9	90	3%	7.5
その他表示不備	2	3	3	6	5	6	12	7	4	9	9	12	78	2%	6.5
賞味（費）期限切れ販売等	5	3	4	4	6	5	6	4	7	1	3	7	55	2%	4.6
細菌・ウイルス汚染等	2	1	–	–	3	6	5	2	4	4	7	3	37	1%	3.7
原材料誤使用	1	–	5	2	3	2	10	2	1	5	2	9	42	1%	3.8
加工不良（殺菌、包装不良等）	3	4	3	1	2	5	6	–	3	3	2	6	38	1%	3.5
容器不良	2	–	1	2	2	4	5	3	4	3	6	2	34	1%	3.1
風味・性状不良、品質劣化	1	2	1	–	3	4	3	4	1	–	–	–	19	1%	2.4
その他	15	11	17	21	19	34	24	26	22	33	7	13	242	8%	20.2
計	207	186	232	192	274	321	337	265	289	276	289	257	3,125	100%	260.4



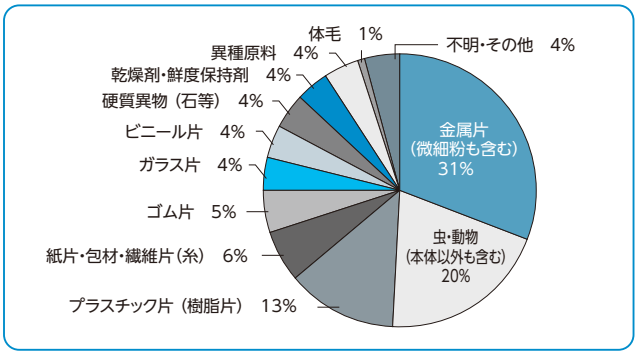
前年度と同様に「アレルギー表記誤記・欠落」や、「期限表示誤記」、「ラベル貼付誤り」など、表示票の貼付に起因するものが過半数を占めております。表示票の管理・チェック体制が非常に重要なポイントとなっていることを示しています。

※現在、“くるみ”が新たにアレルギー表記対象物質として追加すべく、手続きが進められています。

2 異物混入によるリコール

■ 2022 年度　食品事故　異物混入詳細

混入異物	1 月	2 月	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10月	11 月	12月	合計	share	平均件数／月
金属片（微細粉も含む）	3	3	1	2	5	2	7	2	2	3	4	1	35	31%	2.9
虫・動物（本体以外も含む）	1	1	–	–	1	3	2	5	6	2	1	–	22	20%	2.4
プラスチック片（樹脂片）	–	2	–	2	1	2	–	1	2	1	2	1	14	13%	1.6
紙片・包材・繊維片（糸）	1	1	–	–	–	1	–	2	–	–	2	–	7	6%	1.4
ゴム片	–	–	–	–	1	1	–	1	1	–	–	2	6	5%	1.2
ガラス片	–	1	–	–	1	2	–	–	–	–	1	–	5	4%	1.3
ビニール片	1	–	1	–	–	–	–	–	1	1	–	1	5	4%	1.0
乾燥剤・鮮度保持剤	1	–	1	1	–	–	1	–	–	–	–	–	4	4%	1.0
硬質異物（石等）	–	–	–	1	–	–	1	–	–	–	1	1	4	4%	1.0
異種原料	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	2	2	4	4%	2.0
体毛	–	–	–	–	–	–	–	–	1	–	–	–	1	1%	1.0
木片	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–
コゲ	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–
不明・その他	–	–	1	–	–	1	1	–	1	1	–	–	5	4%	1.0
計	7	8	4	6	9	12	12	11	14	8	13	8	112	100%	9.3

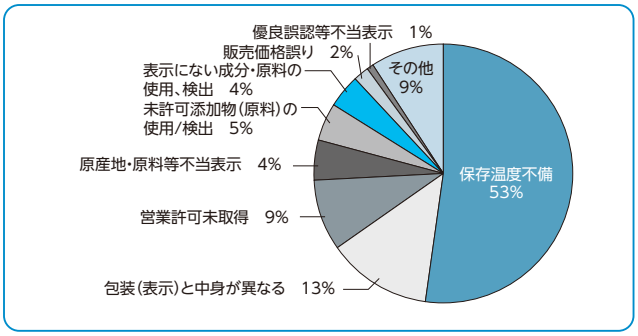


前年と同様に「金属片（微細粉も含む）」、「虫・動物（本体以外も含む）」、「プラスチック片（樹脂片）」の3点で過半数を占めます。金属異物については、製造設備のメンテナンス管理、虫・動物の混入については、防虫・防鼠体制、プラスティック片等については、製造プロセスの管理が引き継き重要と考えられますし、万が一の懸念が生じた際の製品の追跡が可能な体制（ロット管理の細分化と、データ保存。）が重要になります。

3 その他の理由によるリコール

■ 2022 年度　「その他」の概要

事故原因	1 月	2 月	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10月	11 月	12月	合計	share	平均件数／月
保存温度不備	8	3	6	8	8	21	12	19	14	20	6	3	128	53%	10.7
包装（表示）と中身が異なる	3	5	2	2	5	3	3	1	4	4	–	–	32	13%	3.2
営業許可未取得	–	–	7	4	1	3	3	2	1	–	–	–	21	9%	3.0
原産地・原料等不当表示	1	–	–	3	1	3	2	–	–	1	–	–	11	5%	1.8
未許可添加物（原料）の使用 / 検出		2	–	2	–	–	1	–	–	–	–	6	11	5%	2.8
表示にない成分・原料の使用、検出	2	–	–	1	2	–	–	–	–	2	–	3	10	4%	2.0
販売価格誤り	–	–	–	–	–	–	1	2	1	–	–	–	4	2%	1.3
優良誤認等不当表示	–	–	–	–	–	1	–	–	–	–	1	–	2	1%	1.0
見本品テスト品の誤販売	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	1	1	0%	1.0
その他	1	1	2	1	2	3	2	2	2	6	–	–	22	9%	2.2
計	15	11	17	21	19	34	24	26	22	33	7	13	242	100%	20.2



これについても前年と同様に「保存温度不備」については、製品倉庫・流通段階・営業倉庫の温度チェックが重要と考えます。

食品事故情報を詳細に検証すると、
①表示・ラベルの管理（記載内容の確認）
②原料（原料への異物・原料の内容物）・施設の管理（施設機械からの異物混入・保存施設の温度管理）
③製造工程の管理（異物混入対策）
などの、機械・施設を運用する人的確認プロセスが、最終的にはトラブルを削減する重要な工程であることが見えてきます。

酪農を支える人材育成事業 全酪アカデミー

全酪アカデミー
事務局長
坂本 敬太郎

全酪アカデミー事務局長の坂本です。今回は全酪アカデミー事業における就農地確保の状況についてお話しさせていただきたいと思います。先ずは全酪アカデミーについて簡単にご紹介させていただきます。

（一社）全酪アカデミーとは？

令和3年、国内の〝酪農を支える人材〟の確保を目的に全酪連と全国酪農協会が発起人となり、一般社団法人全酪アカデミーが設立されました。

どのような事業？

〝酪農を支える人材〟とは、酪農家、酪農ヘルパー、牧場従業員など酪農現場で従事する人と想定してますが、全酪アカデミーでは先ずはいわゆる新規就農（新規参入）に関する人材発掘、研修、就農地、資金確保等を主とした新規就農のサポート事業を行います。

どうやって人材確保？

全酪連及び全酪アカデミーでは、令和2年度から農業人材のマッチングイベントである「新・農業人フェア」（農水省補助事業）に参加しています。令和3年からは当イベントの協賛としてブースを出展しており、ブース来場者に対し、酪農の魅力を発信するとともに全酪アカデミー研修生の採用活動を行っています。その他、アカデミーHP、全酪新報、業界紙、農業大学校等で広く募集を呼び掛けています。

▲ 新・農業人フェアにて

進捗状況

〈会員〉

賛助会員　36会員
特別会員　4会員

〈研修生〉

1期生（令和2年度）
小久保海

2期生（令和4年度）
佐々木真理子、佐々木雄太、竹田純真

3期生（令和5年度）
前田ヴィオリスカ、前田達弥

〈契約農場〉

2年目以降の研修拠点となる契約農場は、以下の賛助会員の組合員（酪農家）です。

中春別農協（1農場）、栃木酪農協（1農場）、酪農とちぎ（2農場）、愛媛県酪連（1農場）、熊本県酪連（2農場）

〈研修（実地・座学）〉

全酪アカデミーでは3年間の研修体系の中で、酪農家になるための知識と技術を身につけてもらいます。全酪アカデミーでは研修プログラム（カリキュラム）を用意しており、1年目は全酪連の関連牧場での搾乳、農機、圃場、繁殖などの基礎研修を行い、2年目以降の契約農場では実際の酪農家での実践研修を行います。この間、飼養管理、栄養学、代謝、行動学、畜産関連法規、生乳共販、協同組合などの幅広い分野の座学研修を行いますが講師は全酪連の役職員の他、全酪アカデミー事業に賛同いただいた大学教授や特別会員にも務めていただいてます。

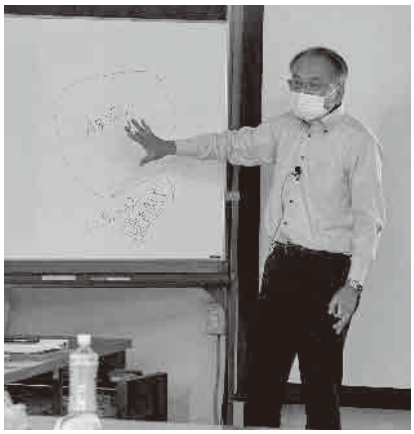
〈就農地の確保〉

酪農就農を志す人にとっては、「就農地の確保」が最も重要ですが、課題も多く確保までには時間を要します。全酪アカデミーでは全国の賛助会員（36会員）から寄せられた就農地情報の中から研修生が気になる物件を選定し、アカデミー事務局、全酪連各支

所、賛助会員が帯同し、就農地の物件視察を行うとともに移譲希望者と研修生のマッチングを行っています。

今回は、実際の全酪アカデミー研修生の就農地確保の取り組みをもう少し詳しくお話しましょう。

1期生の小久保海さんは九州での就農を希望され、これまで7農場ほどの就農候補地を視察してきましたが、最終的に熊本県にて就農地を決定し、現在、熊本県酪連のご協力のもと協議を進めています。現在の予定では、今年9月には全酪アカデミー第1号の酪農家となります。続いて2期生の竹田純真さんは、福島県酪協管内の就農候補地への視察や農家実習を通し、「ここでやりたい！」と就農地を決定しました。昨年11月には就農先の酪農家と竹田さんの間で基本合意書を締結し、今年1月には機械メーカーや就農コーディネーター（全酪連、福島県酪協）による就農物件（土地・農業機械・牛舎・搾乳機器、乳牛等）の資産評価を行いました。4月には町役場による青年等就農計画の承認、そして11月の就農を目指しています。現在は住宅・牛舎補改修・事業計画作成などの準備・手続きを進めています。同じく2期生の佐々木真理子さん、雄太さんは、当初、関東圏で就農を希望されていましたが、賛助会員からの就農地情報が少なかったため、就農希望エリアを広げ、福島県、新潟県、岡山県、愛媛県、宮崎県、鹿児島県で就農地の検討を行ってきました。今年4月には就農する地域内の契約農場での研修が始まるため、現在、就農地選定も大詰めとなっております。



▲ 講師を務める 全酪連 大森常務理事

冒頭にも書きましたが、就農地確保までの過程の最終段階で表面化してくる課題も多々あることから、より早い段階で資産の名義、不動産登記（権利部）、地目の確認、親族・周辺住民の同意などの確認が必要と考えています。

みなさんへのお願い

研修生は就農の3年前から就農地を探し始めます。「高齢で後継者がいない。」「数年後、やる気のある人に譲りたい。」このような酪農家さんがおられましたら、是非、賛助会員を通じ、全酪アカデミーまでご連絡いただけたら幸いです。

年次	1年目	2年目～3年目
研修場所	育成・搾乳の基礎研修 全酪連関連牧場	酪農場での実践研修 契約農場
研修内容及び就農活動	■実地研修 搾乳、繁殖、分娩、飼料、堆肥、自給飼料他 ■座学研修 ✔酪農技術全般 ・乳牛の基本的理論 ✔畜産経営 ✔生乳取引 ✔圃場管理、堆肥づくり ✔協同組合（連合会）とは ✔畜産関連法 ■契約農場選定、就農地視察	■実地研修 搾乳、繁殖、分娩、飼料、堆肥、自給飼料他 ■座学研修 ■就農地確保 ✔就農候補地　選定、視察 ■就農の準備 ✔営農基盤 （牛舎、住宅、草地・機械・乳牛）の確保 ✔事業計画策定 ✔資金の確保 ✔移譲者との協議
	座学研修	就農活動

終わりに

これまで長年の間、酪農家は生乳生産によって国民の食の供給という社会的貢献をしてきた訳ですが、同時に、河川敷や山間地域の景観・国土保全など地域を守るといった視点でも大いに貢献してきました。これが酪農産業に対する地域住民の理解、更には国民への理解に繋がっていたのです。

これからの国内の酪農産業が、生乳生産の維持のみで持続的に発展していけるのであれば、酪農家個々の規模拡大で良いでしょう。

昨今、畜産、酪農に対する厳しい見方もある中で、酪農を持続的に発展させるためには全国あらゆる地域に一定数の酪農家がいなければ、地域における社会的貢献も出来なければ、地域、国民の酪農産業への理解にも繋がっていきません。全国には高齢でかつ後継者がいない酪農家が一定数います。このままでは、いわゆる自然減となってしまいます。全酪アカデミーでは、賛助会員と酪農業界関係団体と連携し、酪農人材の確保に努めてまいります。

▲ 一期生の小久保海さんとご家族

酪農業に対する理解醸成活動報告 3

YouTubeで動画を掲載しております。是非ご覧ください。

仙台支所

●催事名：農事組合法人モーランド
　　一般来場
●場　所：農事組合法人モーランド
　　べーごこハウス前広場
　　（宮城県気仙沼市本吉町）

開催日：令和４年10月～11月

　来場者に日本の酪農・酪農家を応援してもらい、牛乳・乳製品を消費していただくようにチラシやバッグを配布しました。来場者の方には、日本の酪農の現状、国産牛乳の大切さを理解してもらえたと思います。

東京支所

●催事名：搾乳体験活動
●場　所：栃木県内　小学校・幼稚園

開催日：令和４年11月17日㈭、21日㈪　他
参加者：栃木県酪農青年女性会議

　コロナ禍により例年実施している牛乳の試飲ＰＲ活動がいまだ実施できない状況ではありますが、小学校や幼稚園での出張搾乳体験や、ＰＲグッズの贈呈を行い酪農業界への理解を深めて頂く活動を実施しています。

●催事名：第17回深谷市産業祭
●場　所：深谷市役所・市役所通り・中山道の一部（埼玉県深谷市）

開催日：令和４年11月5日㈯～6日㈰
主催者：深谷市産業祭実行委員会
参加者：埼玉酪農業協同組合　2日間で8,000人の来場者

　３年ぶりに開催されたことで多くの人が来場してくれました。恒例となったふっかちゃん牛乳（深谷市近郊の酪農家が生産した生乳を原料とした低温殺菌牛乳）の販売を行い、チラシを配布して酪農への理解醸成を行いました。たくさんの方から国産牛乳を飲んでいます。と話を聞くことができました。

●催事名：ミルク祭り
●場　所：ファーマーズ「あじーな」（長野県上伊那郡）

開催日：令和4年12月７日㈬、15日㈭
主催者：上伊那地域酪農協議会

　地域の方へチラシ、ツールを配布し理解醸成を行い、友人知人、家族等にも伝えてもらうようお願いをしています。

●催事名：農業王国ふかやマルシェ
●場　所：深谷市役所コリドー
　　（埼玉県深谷市）

開催日：令和４年12月23日㈮
主催者：深谷市酪農振興会
参加者：埼玉酪農業協同組合
　　3,000人の来場者

　ふっかちゃん牛乳（深谷市近郊の酪農家が生産した生乳を原料とした低温殺菌牛乳）の販売を行い、地元の生産者の牛乳という事で来場者の方が安心して飲用出来ると好評でした。「これからもおいしい牛乳」の販売を続けて欲しいと大変好評のうちに売れ切れてしまいました。チラシを配布して酪農への理解醸成に努めました。

●場所：書道教室など
　　（群馬県前橋市内）

開催日：令和４年12月７日㈬、
　　15日㈭
参加者：群馬県酪農青年女性会議
　　連絡協議会

　地域の方へチラシ、ツールを配布し理解醸成を行い、友人知人、家族等にも伝えてもらうようお願いをしています。

名古屋支所

●催事名：西尾農業まつり
●場　所：ＪＡ事務センター（愛知県西尾市斉藤町）
開催日：令和４年11月26日㈯、27日㈰
　　２日間で48,000人の来場
主催者：西三河農協
参加者：酪農家　５名
　当日は牛乳の販売も行い、来場者に酪農の現状をお話して牛乳を飲んでいただけるようお願いしました。
　議員の方々も来場され、お話を聞いていただき酪農支援をお願いしました。

▲ 青山周平衆議院議員（自民党）

▲ 重徳和彦衆議院議員（立憲民主党）

大阪支所

●催事名：ふれあいファーム
（大洲喜多地区乳用牛共進会）
●場　所：愛媛県立大洲農業高等学校
開催日：令和４年11月13日㈰
主催者：大洲喜多牛群改良同志会
参加者：愛媛県酪農経営者協議会　他
　会場では動物とのふれあいや、乳製品の販売を行い、ツールやチラシを配布しました。
　来場いただいた消費者との交流により、酪農・乳業への理解醸成を図ることができました。

●催事名：搾乳・餌やり体験
●場　所：板東牧場
（徳島県板野郡）
開催日：令和4年11月10日㈭、17日㈭
参加者：徳島県内の小学生、幼稚園生　他
　牧場において、搾乳・餌やり体験を通じて、酪農の仕事や食に対する関心をもってもらうことができました。

●催事名：直売所（カウィーのみるく館）
新年初売り企画
●場　所：大山乳業工場敷地内の直売所
開催日：令和５年１月３日㈫～５日㈭
参加者：のべ500名の来店
　多くのお客様に来店いただき、その場で保冷バックとチラシを配布しました。地元の白バラ牛乳に愛着があり、引き続き利用していきたい等のお声をいただくこともできました。
〈公式〉白バラ牛乳公式オンラインストア
（➡ shirobarastore.jp）

●催事名：第43回 兵庫県民農林漁業祭
●場　所：兵庫県立明石公園内　千畳芝
開催日：令和４年10月22日㈯、23日㈰
主催者：兵庫県民農林漁業祭実行委員会
参加者：兵庫県酪農青年部会他
　イベント来場者の中から１日120名、計240名を対象に超音波骨密度測定を行い測定結果から検査士及び管理栄養士より改善指導等を行いました。併せて体に良い、牛乳・乳製品の摂取及び消費を促しました。新型コロナウイルスの影響で３年ぶりのイベント出店でしたが、個々に関心がある骨密度測定は希望者が殺到する勢いで、即、定員を消化しました。県産牛乳の試飲なども行い、牛乳・乳製品の消費拡大への協力要請ができました。

日本酪農 見て歩紀 No.356

▲ 左から要さん（父）、拓也さん（次男）、耕大さん（長男）、富貴子さん（母）、美雪さん（長男娘）、舞さん（長男嫁）

合同会社榎本牧場
山口県岩国市錦町

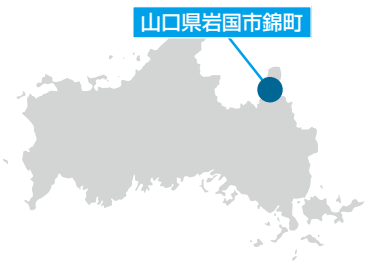
〝家族のだんらん〟から生まれた絆と思いやり、チャレンジ精神！

地域紹介

今回ご紹介します合同会社榎本牧場は、山口県の北東部に位置し、島根県と広島県の県境に接している岩国市錦町向峠（むかたお）地区にあります。岩国市は山口県最大の河川である錦川、岩国城跡や錦川に架かる錦帯橋など観光資源にも恵まれています。牧場がある錦町は県内最高峰の寂地山（標高1，337m）がある山口県で最も標高の高い地域であり、夏には名水百選にも選ばれた寂地川に清流と緑を求めて人が集まります。向峠（むかたお）地区は県外移住者を快く受け入れてくれる地域で、静岡県出身の舞さんも歓迎されたそうです。地域の祭りでは神楽を年に2回開催しており、要さん、耕大さん、拓也さんも神楽メンバーとして神楽を披露しているとのことです。

▲ 神楽

所属する山口県酪農農業協同組合（原田康典代表理事組合長）は、酪農家戸数28戸、出荷乳量8，441t（令和3年度末時点）となっております。



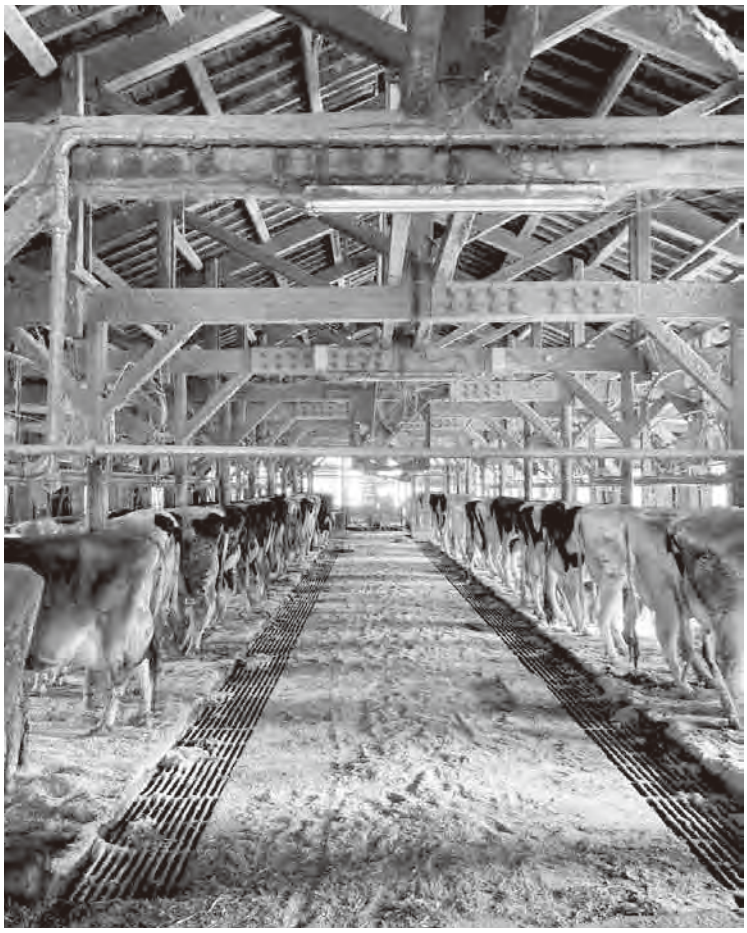
牧場の概要

合同会社榎本牧場は代表社員の榎本要さん（61歳）、奥さんの富貴子さん（61歳）、長男で後継者の耕大さん（34歳）、奥さんの舞さん（34歳）、次男の拓也さん（29歳）の家族5名で仕事をされています。①酪農部門、②和牛繁殖部門、③チーズ工房部門の3部門があり、耕大さんが酪農メイン担当、舞さんが哺育担当、拓也さんが和牛繁殖メイン担当、富貴子さんがチーズ工房メイン担当となっています。担当ごとで完全に仕事を分けるのではなく、全員が他の作業にも入って助け合い協力しながら作業を進めています。現在の飼養頭数は経産牛40頭、未経産牛3頭、下牧牛が7頭、北海道預託育成牛が2頭、山口県畜産試験場の若齢牛預託に7頭となっています。

▲ 牛舎全体

牧場の沿革（始まりから現在まで）

合同会社榎本牧場は要さんのお父さん箇雄さんが昭和30年頃に12～15頭の繋ぎ牛舎で酪農を開始しました。昭和58年に現在の場所に搾乳牛舎が完成（頭数36頭）、平成10年には繋ぎ牛舎の増築（頭数42頭）を行い、現在に至ります。後継者の耕大さんで3代目になり、高校卒業後、岡山県の中国四国酪農大学校に進学しました。そこで舞さんと出会い、平成20年に結婚し山口県に帰ってきました。初めは牛を飼いながら地元の森林組合に就職し、平成24年6月から和牛農家として新規就農しました。弟の拓也さんが平成29年に実家に戻り現在は和牛部門の担当となり、耕大さんが酪農部門の担当となりました。



▲ 牛舎内

自給飼料

自給飼料の作付け面積は10 haでイタリアンライグラスとソルゴーの2期作、稲WCS（飼料専用種）を作っています。現在は新しい試みとしてデントコーンとソルゴーの混播に取り組み始めました。以前はイノシシなどの獣害被害が大きかったのですが、対策として圃場の周りをフェンスで囲んだところイノシシによる被害が無くなりました。自給飼料を作り始めた当初は給与粗飼料全体の自給率が30％程しかありませんでしたが、現在は70％まで増加させることができました。中山間地域であるため、圃場が小さく土地が広げにくい、山間でゲリラ豪雨が多い、機械の大型化がしづらいなどの課題はありますが、将来は自給率90％の飼料体系を目指した取り組みを行っていくとのことでした。

地域に合った畜産の在り方を常に考えながら

耕大さんは常に「この向峠（むかたお）地域に合う畜産経営とは何か?」を考えて、日々の仕事に取り組まれているそうです。要さんが「むかたお農事組合法人」の役員をしており、地域との耕畜連携関係が構築されています。水田の跡地の転作で自給飼料の作付けをして、あぜ草を刈って和牛に給与しています。近所の方から「うちの田んぼの周りのあぜ草も刈ってくれないか」と話があれば、周囲の田んぼのあぜ草も刈り取っているとのことです。向峠地区は昔から畜産経営が盛んな地域だったので、元々牛を飼っていた農家が多く、地域の理解が得やすく、共に畜産をされているとのことでした。

酪農のこだわり

耕大さんは「牛舎で牛を病気や事故で死なせないぞ!」をモットーに牛を飼っている!と仰っていました。家族全員が同じ考え方で酪農に取り組まれており、奥さんの舞さんも「子牛は絶対に生かす!」との思いで、愛情をこめて日々哺育の仕事を行っています。チーズ工房が完成してからは、体細胞数や細菌数などの乳質にもより強くこだわるようになりました。また、「長命連産」には特にこだわりをもって取り組んでおり、牧場内の最高齢牛が8産目を迎えるなど、その牛にあった寿命で生かして大切に飼うことを心掛けています。

牛を健康的に飼うために、カウコンフォートに積極的に取り組んでおられます。10年程前に、「飼槽に御影石を使って新鮮なエサを給与」という大山乳業農協の農業新聞の記事を見て、知り合いの石屋に相談して御影石の飼槽にしたそうです。「牛には綺麗なお皿で新鮮なエサを食べてもらいたい」と仰っていました。

暑熱対策では、毎年暑くなる前に換気扇の羽根の埃を掃除してから使うようにしています。常に新鮮な空気と風速が牛に当たって涼しくなるようにをモットーにカウコンフォートに努めています。

現在、ウォーターカップの配管が細いので配管奥のウォーターカップの水圧が低く水量が少なくなっているという課題があります。配管を太くすることで牛の給水量を増やして、更に「ループ配管」にすることで安定した水圧を確保し、快適な環境にしていきたいと考えているそうです。

チーズ工房部門

榎本牧場チーズ工房は2020年に始まりました。チーズ工房を始めたのは耕大さんの趣味で作っている「なんちゃって!モッツアレラチーズ」を家族に振舞った事がきっかけでした。このチーズが家族からの評判が良く、母親の富貴子さんが「チーズを作ってみないか?」との提案で話が進み、3年前にチーズ工房を立ち上げました。奥さんの舞さんも「うちの牧場で出来た乳で何かできないかなぁ」と思いが元々あり、6次化に挑戦したい気持ちもありこの新部門の後押しとなりました。

チーズ作りのこだわりは、毎朝バルクに入る前の生乳を取ってチーズに使っているとのことです。この生乳を使う事でチーズの出来が全然違うと仰っており、日々おいしいチーズを求めて改良を行っています。現

在、山口県岩国市のふるさと納税返礼品にも選ばれており、特にモッツァレラチーズが人気で注文が増えています。今後は新作のカマンベールを販売予定とのことです。

和牛繁殖部門

合同会社榎本牧場で和牛を飼い始めたのは平成20年の耕大さんが実家に戻った際、島根県の和牛農家から和牛を1頭譲ってもらいスタートし、2年前に拓也さんにバトンタッチしました。拓也さんは「牛と人との信頼関係を築かないと餌をしっかり食べてはくれない！良い牛を作るには乾草を食べきる土台作りが大切！」とおっしゃっていました。牧場では牛の近くを通るときは撫でてあげて、牛と触れる回数を増やしているそうです。人慣れしている牛がとても多く、牛と人との信頼関係が築かれているのを感じます。また、乾草は一週間に1度、まとめて細断機にかけて細かくして乾草を喰い込ませるよう心掛けています。現在、山口県和牛子牛市場平均価格より去勢では10万円以上高く、雌で5万円以上高い価格で市場で販売しています。購入者からは「榎本牧場の和牛子牛は、導入してすぐに乾草を良く食べてくれる」と高い評価を頂いているようです。「試行錯誤の毎日ですが、やったらやった分だけ結果が返ってくるからおもしろい！失敗を恐れずにチャレンジしていきたい！」との事でした。

酪農教育ファーム

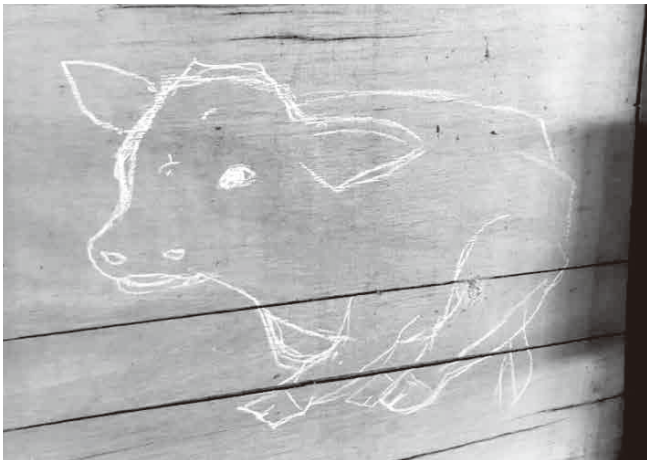
以前、耕大さんが小学3～4年生60人に対して牧場の体験学習を行ったことがありました。その際、「学校の先生も牛の事を全然知らないんだ」と、大人も牛の事、牛乳の事をほとんど知らない事に衝撃を受けたそうです。そこから、もっと酪農の事を伝えたいと思うようになり、酪農教育ファームの認定を取得したそうです。現在は小学校などで酪農について講演を行っているとのことです。

▲ 放牧

家族だんらん

合同会社榎本牧場では夕食を要さん、富貴子さん、耕大さん、舞さん、拓也さん、耕大さんのお子さんの、進（しん）くん（中2）、美雪（みゆき）ちゃん（小6）の7人で食卓を囲み、顔を合わせてご飯を食べるようにしています。毎日の夕食のだんらんが家族の絆を深め、仕事への思いやりにつながり支えあい、新しいチャレンジが生れる、こんなシンプルな関係性にあこがれと感動を覚えました。

美雪ちゃんは牛の絵が描くことが大好きで、牧場内の壁や床、ロールにチョークやマジックで描かれたカワイイ牛の絵を見ることができ、牧場の一員として活気を与えています。



お忙しい中、快く取材をお引き受けくださり誠にありがとうございました。榎本牧場のご健勝とますますのご発展をお祈りいたします。

（M・I）

酪農部発

代々木が乳々木に!?「らくのうマルシェ」が２か月連続開催!!

国産牛乳･乳製品の直売会「らくのうマルシェ」が、12月10日㈯と1月14日㈯に2か月連続で開催されました。

今回の開催も本所所在地である東京・代々木の酪農会館エントランスに設けられた販売ブースに、全国13メーカーの牛乳・乳製品46アイテムが販売されました。

今回の開催は一昨年11月、昨年4月に続く第3・4回目となり、牛乳の飲み比べやチーズの試食販売などにより、各日4～500名の来場者に国産牛乳・乳製品の魅力をお伝えすることができました。

本イベントは、本会の牛乳・乳製品の消費拡大活動“I♥MILK ACTION2022winter”の活動の一環として、運営スタッフも部門を跨ぐ職員15名で構成されました。

今回で4回目の開催となることもあり、前回までに来場頂いた方々から頂いた「様々な牛乳の商品の特徴を教えて欲しい」といった声を反映した“牛乳飲み比べブース”には、製造方法や産地、乳牛の種類が異なる3種類の商品が用意され、商品ごとの特徴を本会職員が直接説明し来場者に商品の違いや特徴を感じ牛乳・乳製品への関心をより深めて頂くことができました。

そして、前回までに来場者から、国産フレッシュチーズやヨーグルトが欲しいといった声も反映した幅広いラインナップが用意されました。国産フレッシュチーズはプロセスチーズに比べ、比較的高い価格帯ですが、来場者の関心も高く、予想以上の早い時間帯に完売することができました。

また、年末・年度末の牛乳乳製品消費拡大を目的に合わせて、会場ではＪＡ全農の「抹茶ミルク」の販売や、Ｊミルクが作成したステッカー「カルシウム200＋をとろう！」をお子様連れの方々に配布するなど他団体との連携した取り組みも展開されました。

12月、1月の開催となり、東京都心では気温も下がり、特に1月は小雨が降る中での開催となりましたが、多くの来場者で会場は活気で溢れかえりました。

酪農情勢は依然として厳しく、生乳需給もめまぐるしく変化するなか、酪農家の力になれるための取組について、毎回試行錯誤を繰り返しております。これからも、消費者に酪農と国産牛乳・乳製品の素晴らしさを伝えていきたいと思います。（A.M）

酪農部発

全国農協乳業協会「令和4年度経営者研修会・意見交換会」

酪農部が事務局を担っている全国農協乳業協会（会長：大久保克美東毛酪農業協同組合代表理事組合長）において、令和５年１月12日㈭に19事業者23名の参加をえて、KKRホテル東京「丹頂の間」及びオンライン併用にて「令和４年度経営者研修会・意見交換会」を開催いたしました。

毎年１月に開催している本研修会・意見交換会は、会員経営者に対して酪農乳業情勢や時事的なテーマについて講演を用意しております。今年度は、「酪農乳業情勢」をテーマに、２つの講演をいただきました。

冒頭の大久保会長による主催者挨拶の中で、酪農乳業界の過去類を見ない危機的状況を実感する中で、酪農家に一番近い乳業である農系プラントが、牛乳の消費拡大や理解醸成により一層の尽力することが業界を盛り上げていくことであるとし、協会運営への理解・協力を求められました。

講演①として農林水産省畜産局牛乳乳製品課乳製品調整官 松本憲彦氏より、「生乳需給の現状及び今後の対応について」と題して、直近の需給緩和や生産資材高騰等による酪農現場の経営ひっ迫や、乳業メーカーも牛乳乳製品の需要停滞が続く中で必要な製品価格への転嫁ができていない状況が続いていることに触れ、それらに対する国の対策・対応について説明がなされました。令和５年度については、乳製品在庫の解消や酪農生産現場の支援に関する対策事業を用意するとともに、需給の適正化にむけた取り組みに協力の依頼がされました。

続いて講演②として、北海道大学大学院農学研究院 基盤研究部門 准教授 清水池義治氏より、「コロナ禍・酪農危機下の需給調整の対応と今後に向けて」と題して、新型コロナウイルス禍における酪農乳業現場に起きた様々な問題について、数字や統計等を用いて解説いただきました。また、今後の見通しとして、具体的な施策や今後業界としてどのような取り組みをすべきかご講演をいただきました。

今回の研修会の２つの講演においても、酪農家に一番近い乳業としての「農系プラント」の重要性が再認識された中で、当協会としても他業界団体と連携を取りながら、消費拡大や全国農協乳業協会会員の企業支援を行っていきたいと思います。（A.Y）

◀ 清水池講師

▲ 研修会風景

本研修会は、(一社)Jミルクの「国産牛乳乳製品高付加価値化事業」の助成を受けて実施しています。

仙台支所発

「第２回 牛乳標語・川柳コンクール審査会」「第33回 ミルキー図画コンクール審査会」開催

福島県牛乳普及協会主催（会長 福島県酪農業協同組合紺野宏代表理事組合長）は、11月8日㈫コラッセふくしまにおいて第2回 牛乳標語・川柳コンクール審査会を開催しました。福島市立北信中学校 川名有香先生を審査員長に迎え、木幡和宏氏（県畜産課主任主査）、紺野宏会長、鈴木伸洋副会長が審査員を務めました。

県内中学校34校から595点の標語・川柳の応募があり、入賞30点を選出していただきました。「生徒たちが現在だけでなく、未来のことも考えて作っている作品や、地元の牛乳が美味しいという気持ちが伝わってくる作品もあり良かった」と、講評をいただきました。

11月17日㈭には、福島トヨタクラウンアリーナにて、第33回ミルキー図画コンクール審査会を開催し、福島市立福島第一小学校 安齋俊彦先生を審査員長に迎え、3,553点の応募作品の中から50点を選出していただきました。

応募点数が昨年より約500点増え、審査も大変でしたが、「このミルキー図画コンクールに関心を持ち、絵を描くことが好きな子供たちが応募してくれているのが伝わってきた」と講評をいただきました。(Y.M)

入賞作品のご紹介

●第２回 牛乳標語・川柳コンクール審査会

最優秀賞

標語

須賀川市立義務教育学校 稲田学園 一年 星野千夏さん

朝日浴び
牛乳飲んで
今日も元気に
いってきます。

＊牛乳を飲んで元気に過ごしたいという思いを込めて作りました。

川柳

須賀川市立第三中学校 二年 岩谷芽依さん

手にとって
飲めば飲むほど
いい笑顔

＊牛乳は、飲むとすかさず笑顔になります。それが伝わるように表現しました。「飲めば飲むほど」という言葉を印象に残るようにしました。

標語

南相馬市立加島中学校 三年 髙屋菜央さん

牛の愛
五臓六腑に
沁みわたる

＊酪農家さんから、沢山の愛を注いでもらっている牛。その牛からいただける牛乳は、五臓六腑に沁みわたっているのでこの作品にしました。

優秀賞

標語

西郷村立西郷第一中学校 一年 須藤有捺さん

父目指し
ミルクを飲んで
あと少し

標語

南相馬市立鹿島中学校 一年 多田和香菜さん

なに飲もう
迷ったときは
牛乳だ

川柳

いわき市立入遠野中学校 一年 折笠大紀さん

飲んでよし
料理に、デザート
大活躍

川柳

南相馬市立鹿島中学校 一年 森安南さん

大好きな
乳製品で
腸美人

標語

会津坂下町立坂下中学校 三年 齋藤陽南梨さん

運動後
疲れた時こそ
まず牛乳

標語

福島市立福島第一中学校 三年 恩田結奈さん

牛乳を
飲んで目指すは
ハリウッド

●第33回 ミルキー図画コンクール審査会

最優秀賞

年少の部
相馬市立大野幼稚園
4歳 佐土原光希さん

年長の部
相馬市立大野幼稚園
5歳 小野史也さん

低学年の部
郡山市立明健小学校
1年 浅井大和さん

中学年の部
会津若松ザベリオ学園小学校
3年 遠藤千尋さん

高学年の部
喜多方市立第三小学校
6年 永井楓茉さん

◀ 審査風景

東京支所発 群馬県にて酪農理解醸成に係るイベント開催

「モ～っと牛乳飲んでくだ祭」と題する牛乳消費拡大イベントを群馬県牛乳普及協会（群馬県牛乳販売農業協同組合連合会）は、令和４年 12 月 10 日㈯に群馬県前橋市「けやきウォーク前橋」で開催しました。

当日は、来場者に牛乳の配布を行い、バター作り、牛乳早や飲み大会、疑似搾乳体験、酪農家が仕事のやりがい等を語る催しを行い酪農に対する理解醸成を行いました。（H.I）

▲ 酪農家が仕事のやりがい等を語る催し

▲ イベントの宣伝看板

大阪支所発 西日本酪農青年女性会議「第27回 酪友フォーラム」開催

11 月 24 日㈭、西日本酪農青年女性会議（山下委員長）は、兵庫県姫路市の「姫路キャッスル グランヴィリオホテル」において第 27 回酪友フォーラムを総勢 55 名の参加のもと３年ぶりに開催しました。第１部の講演では全酪連総合企画室 丹戸室長による演題「ヨーロッパ酪農から学ぶこと」～どうして、欧州は労働生産性が高いのか？～困難な酪農経営環境をどのように克服するのか？第２部では全酪連近畿事務所下田所長による講演「持続可能な酪農経営を目指して」～日々の飼養管理で押さえておきたい重要ポイント～を行いました。どちらの講演も貴重な講演内容となり、皆さんからは「講演内容も良かった、久々のフォーラム開催ができとても良かったと思います」という声がありました。懇親会では恒例の抽選会（各会員より景品を持ち寄り）を行い、大変盛り上がりました。（A.O）

大阪支所発

全酪連近畿中四国酪農団体協議会「令和４年度 管内視察研修会」を開催

12月８日～９日全酪連近畿中四国酪農団体協議会（長恒会長、19会員）は、大阪支所管内にある瀬戸内海全域をカバーする西日本最大級の穀物供給基地であるパシフィックグレーンセンター㈱での構内視察と丸紅飼料株式会社穀物油糧部穀物課長 谷口大樹氏・三輪氏による「穀物相場の世界情勢について」の研修会を行いました。40Mのサイロの上から荷役設備（機械式アンローダー２基、ニューマチックアンローダー１基）、サイロ（40M）を視察しました。船の作業予定ではありましたが入港が遅延していた為、作業を見る事が出来なかったのは残念でした。研修終了後、宿泊先ホテル倉敷アイビースクエアに移動し、懇親会を行い、翌日は夢二生家記念館・少年山荘（旧夢二郷土美術館）・牛窓オリーブ園（オリーブパレス展望台）で観光を行いました。３年ぶりの開催となり和やかな研修となりました。（A.O）

原稿募集

「酪農トピックス」では皆様からの記事を募集しております

共進会、Ｂ＆Ｗ、酪農祭り、親睦スポーツ大会といった催事情報から組合住所の変更や移転等案内情報、そして直営店情報や組合の自慢情報まで、酪農トピックスでは会員の皆様からの原稿を募集しております。本コーナーは会員の皆様の情報交換の場です。ぜひご活用ください。

送付先　**皆様のお近くにあります本会支所までご送付・ご連絡ください。**

■札幌支所
〒060-0003
札幌市中央区北３条西７丁目１　酪農センター５階
tel.　011-241-0765

■名古屋支所
〒460-0008
名古屋市中区栄1-16-6　名古屋三蔵ビル３階
tel.　052-209-5611

■仙台支所
〒980-0021
仙台市青葉区中央1-7-20　東邦ビル３階
tel.　022-221-5381

■大阪支所
〒532-0011
大阪市淀川区西中島5-14-10　新大阪トヨタビル６階
tel.　06-6305-4196

■東京支所
〒151-0053
東京都渋谷区代々木1-37-2　酪農会館４階
tel.　03-5931-8011

■福岡支所
〒812-0016
福岡市博多区博多駅南1-2-15　事務機ビル７階
tel.　092-431-8111

ZENRAKUREN

Your Partner 全酪連

初乳粉末製品

GOODSTART PREMIUM

免疫グロブリン 70g／袋以上 含有

初乳が足りない時、イザという時の備えに

○ 作業性は「3楽」 ～溶かすも楽、給与も楽、片付け作業も楽々～

何かと余裕がなく、慌ただしい子牛の分娩。溶解性に優れているグッドスタートプレミアムを使えばスムーズです。

消化・吸収・機能性に優れた各種成分を配合しました!

- 良質な初乳粉末
- 中鎖脂肪酸
- ビタミン ミネラル
- 乳酸菌 ビフィズス菌
- 全卵粉末

全酪連の購買製品カタログ（全国版）はこちら

代用乳・配合飼料・添加物・酪農・畜産機材類　掲載

地域によって、取扱いがない製品もございます。
詳しくは各支所へお問い合わせください。

代用乳製品

生まれた子牛は強化哺育®にお任せください!!

ホルスタイン雌子牛 強化哺育®用

カーフトップEX（エクセレント）

全酪連は2005年1月に搾乳後継雌牛のための『強化哺育®・育成体系』を発表、強化哺育®用代用乳『カーフトップEX』を供給してまいりました。以来、全国各地でご利用いただき、子牛の発育と健康面における大幅な改善、初産分娩の月齢短縮や体格向上、初産乳量増加などの好結果に絶大なるご支持を賜ってまいりました。全酪連・酪農技術研究所では、自家産の雌牛を対象に、哺育体系の違い（『標準体系』vs『強化哺育®』）を比較するための飼養試験を1998年より継続してまいりました。これまでの5年間のデータを哺育期・育成期・初産乳期について集積・比較した結果を要約すると、初産分娩月齢は22.3ヶ月でほぼ同一、初産分娩後体重は強化哺育®区が596.2kgで+23.7kg、初産乳期乳量は強化哺育®が9,682kgで標準より+822kgという結果でした。

和牛・F1子牛 強化哺育®代用乳

カーフトップEXブラック

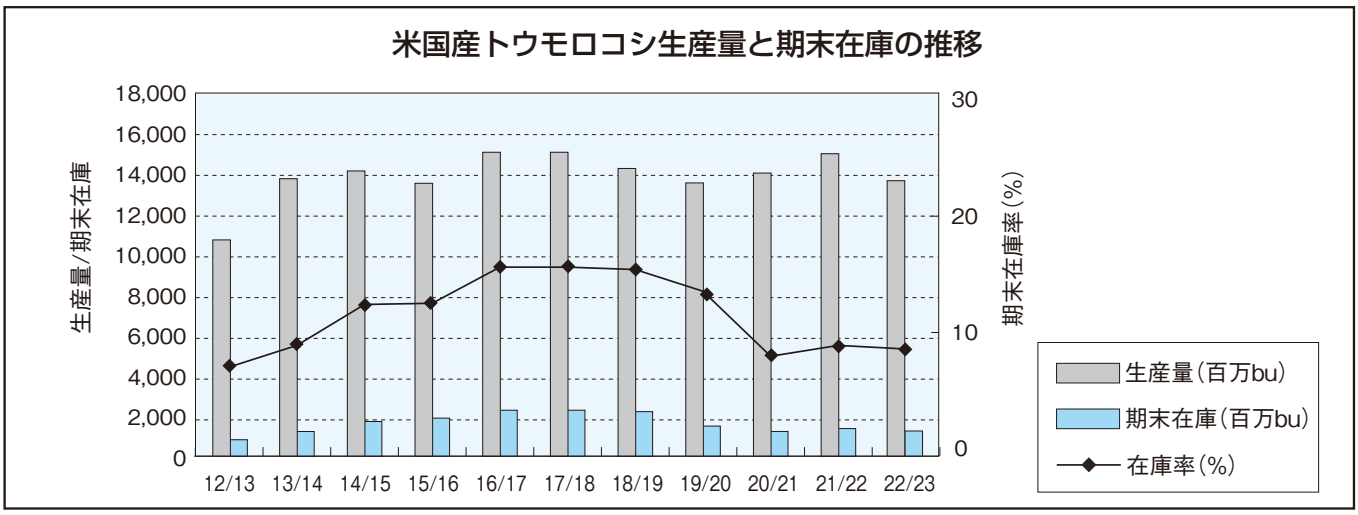
強化哺育®の効果を和牛子牛やF1子牛に応用するために『カーフトップEXブラック』を開発、2007年夏より供給開始し、全国の肉用素牛の体格を大幅に改善して注目されております。肉用素牛においても、強化哺育®によって、過肥にならず、フレームサイズが大きく、飼料摂取に優れた育成管理が重要であり、全国で自動哺乳機による和牛・F1子牛強化哺育®事例が普及しつつあります。『カーフトップEXブラック』は、ホルスタインよりも生時体重の小さい和牛やF1子牛のエネルギー充足を満たすためにエネルギー濃度を上げ、更に粉末初乳を加えて便スコアの改善を考慮しています。

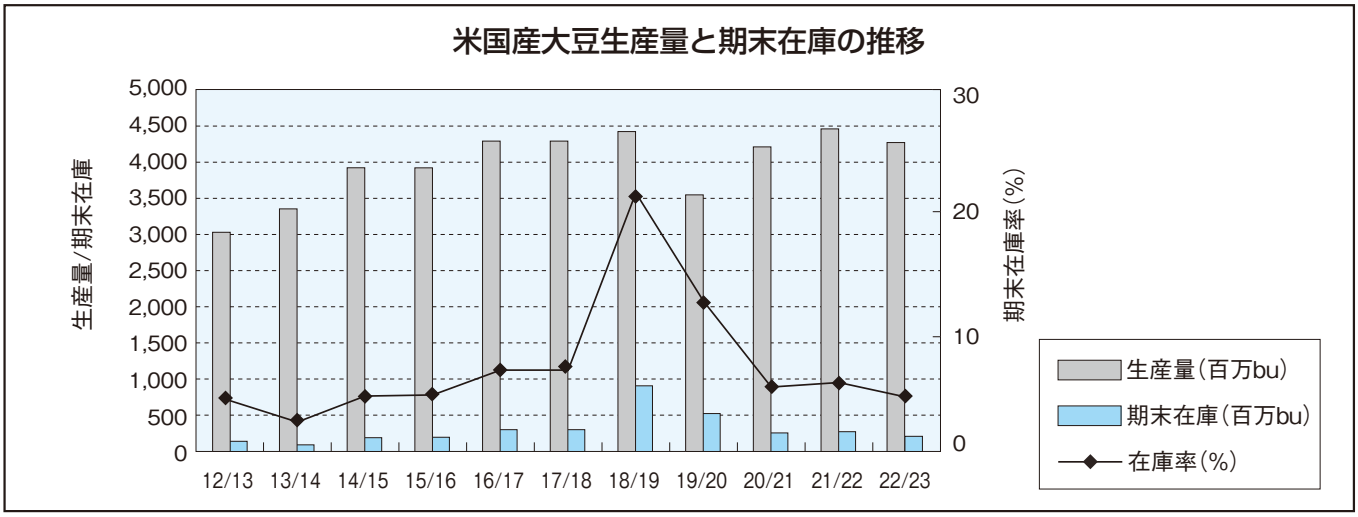
お問い合わせ先　全国酪農業協同組合連合会

札幌支所 011(241)0765	仙台支所 022(221)5381	名古屋支所 052(209)5611	福岡支所 092(431)8111
釧路事務所 0154(52)1232	北東北事務所 019(688)7143	大阪支所 06(6305)4196	南九州事務所 0986(62)0006
帯広事務所 0155(37)6051	東京支所 03(5931)8011	中四国事務所 0868(54)7469	
道北事務所 01654(2)2368	北関東事務所 027(226)6851	近畿事務所 0794(62)5441	
根室駐在員事務所 01537(6)1877	栃木事務所 028(689)2871	三次事務所 0824(68)2133	

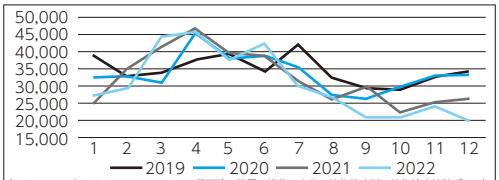
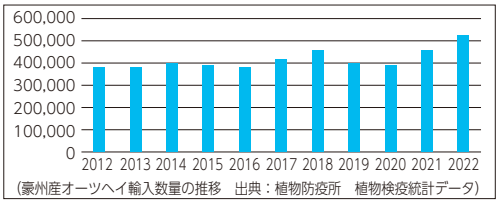
原料情勢　令和5年1月

		21/22年産	22/23年産
1月12日発表 米国農務省 トウモロコシ 需給予想	作付面積（百万エーカー）	93.3	88.6
	単　　収（ブッシェル/エーカー）	176.7	173.3
	生 産 量（ブッシェル）	150億7,400万	137億3,000万
	需 要 量（ブッシェル）	149億5,600万	139億1,500万
	期末在庫（ブッシェル）	13億7,700万	12億4,200万
	在 庫 率	9.21%	8.93%
トウモロコシ 相場動向	シカゴ相場は横ばいからやや軟調に推移していたものの、1月のUSDAの報告内容が予想より強い内容だったことから相場は反発した。アルゼンチンコーンの生育状況は干ばつにより悪い状態が続いており、世界的穀物需給は逼迫していることからシカゴ相場は底堅く推移する見込み。		
大豆粕相場動向	アルゼンチン産の高温乾燥に伴う作柄悪化懸念が高まっていることや、中国のコロナ規制緩和に伴い米国産大豆の輸出が好調であることから、シカゴ大豆相場が堅調に推移しているため、為替が円高傾向にあるものの国産、輸入大豆粕ともに強含みの相場となっている。		
糟糠類	【一般フスマ】　7月以降小麦粉挽砕量は引続き前年割れで推移する見通しで、ふすまの発生量も限定的となることから、当面の間供給制限は継続される見通しとなっている。		
	【グルテンフィード】　国産は十分な在庫確保ができない中、スターチメーカーは定修時期に入り需給は引続き逼迫している。不足分は中国産で賄っているものの、現地価格が高騰しているため、グルテンフィード相場は堅調に推移している。		
海上運賃	12月のフレート市況は、強材料に欠け軟調に推移した。中国のゼロコロナ政策の規制緩和があったものの、米国産穀物の輸入・成約ペースの鈍化が続いたことが要因。今後の懸念点として2023年から温室効果ガス排出量削減を目的として燃料規制が導入される。規制を満たない本船は①減速航行、②エンジン整備、③古い船の退場圧力を余儀なくされ船腹供給量はタイトとなる可能性から海上運賃の反発には注意したい。		





輸入粗飼料の情勢　令和５年１月

北米コンテナ船情勢	北米西海岸南部（PSW）のロサンゼルス・ロングビーチ港の11月コンテナ取扱量は、インフレ由来の消費減少や港湾労使交渉によるストライキを懸念した荷主が貨物を東海岸へ移行したことにより、前年同月比で約20%減少しており、過去２年あった港湾の混雑は解消しています。北米西海岸北部（PNW）のシアトル・タコマ港の11月コンテナ取扱量は、空コンテナ不足・本船遅延等に起因する船腹不足により、前年同月比で約24%減少しています。通常PNWの貨物はタコマからカナダのバンクーバー港を経由し日本へと寄港していますが、今冬のバンクーバーは例年以上の豪雪に見舞われており、ターミナルの荷役作業が遅れ、加えて中国をはじめとするアジアからの輸入貨物の減少や本船の抜港等が原因で空コンテナが不足しています。このため、カナダ航路については、各船会社において新規ブッキングを受け付けておらず、出荷スケジュールに遅延が生じ始めています。苫小牧港や博多港向けなど、北米や豪州からの経由地となる韓国では11月末より港湾関係のトラック運転手によるストライキがおよそ２週間行われていました。この影響でコンテナ搬出入量が平時に比べ60%程度まで落ち込んだため、日本―韓国間の輸送貨物も一時的な遅延が見られましたが、12月中旬に交渉がまとまり、状況は落ち着きを見せ始めています。
ビートパルプ	【米国産】　産地では各製糖工場で生産が続いています。22年-23年産ビートの生産量は作付面積減少の影響で21年-22年産より減少する見込みとなっています。主産地であるミネソタ州クリスタル地区ではビートの原料の保存に適した気候のなかビートパルプが生産されていますが、多くの工場で従業員不足と厳冬による原料や製品輸送向けのトラックや鉄道の手配に苦慮しています。産地相場については引き続き、国内外から生産量を超える追加需要の引き合いが強いことから、堅調に推移しています。
アルファルファ	農林水産省・植物防疫所から発表された輸入統計の速報値によると2022年における日本のアルファルファの年間輸入量は前年比95%のおよそ368,000ｔとなりました。特に22年産の新穀の出荷が本格化した９月以降、月間輸入量は25,000ｔ以下となっており、歴史的に低い水準の輸入量となっています。一昨年21年の年末は海運の混乱により輸入量が限られ供給が逼迫しましたが、昨年末は海運情勢が改善したにも関わらず、21年以上に輸入量が減少しています。低調な輸入量のなかでも日本においては逼迫感が見られなかったことから、歴史的高値となった米国産アルファルファの需要低下が見られています。  (2019-2022年におけるアルファルファ月間輸入数量の推移　出典：植物防疫所　植物検疫統計データ)
	【ワシントン州】　22年産は輸出向け主産地であるワシントン州で収穫期に不安定な天候が続き、低級品中心の発生となったことから、各輸出業者において、中国を中心に需要の旺盛な上級品を十分に買付できていない状況です。低級品についても、旱魃が回復したアイダホ州を中心に産地相場はピーク時に比べ軟化している一方、今年は降雪が多く厳冬のため、放牧草の代替で米国内の酪農家、肥育農家からの需要が戻ってきており、今後需要が強まる可能性があります。
チモシー	【米国産】　主産地である、ワシントン州コロンビアベースン及び、エレンズバーグでは22年産の生産を終了しました。22年産１番刈は上級品中心の発生となり、中・低級品の発生は限定的となりました。産地相場が異常な高値となったなか、米ドル対比で通貨安となった日本、韓国からの需要は予想を上回る減少となっており、各輸出業者で工場の操業に苦慮している状況です。この影響で一部の輸出業者が値下げを行い、出荷を促す動きが出ています。
	【カナダ産】　主産地であるアルバータ州中部クレモナ地区、南部レスブリッジ地区ともに22年産の収穫作業は終了しており、１番刈の品質は中級品から上級品、２番刈の品質は低級品から中級品が中心の発生となっています。産地相場は内需及び海外からの引き合いが強いため、堅調に推移しています。一方産地では12月下旬に寒波が襲い、豪雪の影響で国内の輸送が混乱し、工場での生産にも大きな遅れが発生しています。
スーダングラス	産地では22年産の収穫は終了しました。急速な円安の進行等により、日本向けの出荷は鈍化傾向にあります。この状況が続けば、産地の各輸出業者は例年よりも多くの繰り越し在庫をもって23年産を迎える可能性があります。一方で23年産に向けた種子の栽培は、主産地のひとつであるアリゾナ州ユマで昨年、旱魃による取水制限があったため、生産量は例年に比べて減少しました。この減産が種子価格に影響を及ぼし、23年産スーダングラスの作付けに波及する可能性があり種子相場には注視が必要です。
クレイングラス	**クレインは全酪連の登録商標です。** 産地では22年産におけるクレイングラスの収穫は終了しました。主産地であるカルフォルニア州南部インペリアルバレーでは、現在一時的に夏場に見られた、内需からの猛烈な引き合いはないものの、産地では依然として価格が堅調なアルファルファの代替としてクレイングラスが取引されています。一方でスーダングラス同様輸出向けの荷動きの鈍化が見られています。
バミューダ	2022年のバミューダヘイは米国内の馬糧市場を中心に旺盛な需要がありました。バミューダストローについては、夏季に収穫されたものは、他の禾本科系牧草と同様に需要が減退し、在庫を抱える輸出業者が見受けられます。現在産地では色目が悪く輸出向けの需要が少ない秋季から冬季に栽培されるウィンターバミューダストローの作業が本格化しています。
オーツヘイ	【豪州産】　農林水産省・植物防疫所から発表された輸入統計の速報値によると2022年の豪州産オーツヘイは、およそ529,000ｔ本邦に輸入されており、前年の2021年比で71,000ｔ程度増加しています。500,000ｔの輸入量を超えた年は、過去10年なく、本会の調べによると2006年以来13年ぶりになります。今回の大幅な増加の背景には21年産北米産グラスヘイが旱魃の影響で発生量が少なかったことよる代替需要や、22年産北米産牧草が軒並み高値となったことで、割安感のある豪州産オーツヘイの需要が高まったと考察されます。生産については22年産の収穫作業は刈残しがある東豪州を除き概ね終了しています。22年産の作況は地域によって大きく異なり、東豪州では断続的な降雨の影響で、重度の雨あたり品や、刈遅れ品の発生がほとんどで低級品中心の発生となっています。南豪州でも断続的な降雨の影響で雨あたりや刈遅れ品の発生が多く、上級品の発生は限定的です。一方で西豪州は比較的作況に恵まれたため、上級品中心に各グレードバランスよく発生しています。産地相場としては、作付面積減少やインフレを主要因に生産コストは上昇しており、21年産比で産地での買付価格は上昇していますが、直近、対米ドル比で豪州ドル安となっていることや、輸出業者によっては、旧穀を保有していることから、輸出向けの値上げ幅を吸収できており、相場は安定的に推移しています。  (豪州産オーツヘイ輸入数量の推移　出典：植物防疫所　植物検疫統計データ)
ウィートストロー	【豪州産】　産地では収穫作業が本格化しています。オーツヘイと同じく、雨の影響で収穫作業に遅れが生じており、例年より３週間程度遅い進捗となっています。東豪州中心に一部の地域で降雨被害を受けましたが、西豪州では良品が発生しています。

今般の人事異動について、次のとおりお知らせします。

人事異動

新	旧	氏名
■令和５年２月1日付異動発令		
専務特命　福島復興牧場事業統括担当	購買生産指導部長	山崎　正典
企画管理部長 兼 総合企画室長	企画管理部　総合企画室長	丹戸　靖
総務部長 兼 総務･広報課長	企画管理部長	岡田　征雄
購買生産指導部長	総務部長 兼 総務･広報課長	工藤　文彦
札幌支所　購買推進課長	仙台支所　購買畜産課長	山中　新
札幌支所　帯広事務所長	札幌支所　購買推進課長	根岸　知紀
仙台支所　購買畜産課長	札幌支所　帯広事務所長	鈴木　孝明
■令和５年２月1日付昇進発令		
企画管理部　財務課長代理	企画管理部　財務課	山中　祐介
購買生産指導部　畜産課長代理	購買生産指導部　畜産課	柳井　秀信
大阪支所　中四国事務所長代理	大阪支所　中四国事務所	阿部　真之介
大阪支所　三次事務所長	大阪支所　三次事務所長代理	石井　健太郎
福岡支所　次長 兼 総務課長	福岡支所　総務課長	松下　裕

INFORMATION

北海道 乳牛産地情報

令和５年２月１日現在

札幌支所	TEL 011-241-0765
釧路事務所	TEL 0154-52-1232
根室駐在員事務所	TEL 01537-6-1877
帯広事務所	TEL 0155-37-6051
道北事務所	TEL 01654-2-2368

価格状況 ↑……強含み ↗……やや強含み →……横這い ↘……やや弱含み ↓……弱含み

事務所	畜種	相場(万円)	価格状況	管内状況
札幌管内	育成牛(10-12月令)	15～25	→	札幌管内の1月中旬までの生乳生産量前年比は、函館管内月計で99.7％、累計で102.0%、苫小牧管内月計で95.3%、累計で96.6%の実績となっております。2月の初妊牛動向といたしまして、4月下～5月中旬分娩が中心となっています。初妊牛につきましては、春分娩牛の道内需要が高まり管内市場も強含みに推移しました。庭先購買につきましても強含みに推移すると考えられます。腹別といたしまして、2年後を見据えて雌雄選別腹の需要が高まっており、引き合いがかなり強くなっている状態です。経産牛につきましては、離農などで資源は多くあり春分娩牛でも堅調な動きをしてくると考えられます。
	初妊牛	47～57	↗	
	経産牛	20～30	→	
釧路管内	育成牛(10-12月令)	20～30	→	根釧管内の1月中旬までの生乳生産量前年比は、釧路管内月計で93.4%、累計で97.2%、中標津管内月計で94.2%、累計で98.1%の実績となっております。2月の初妊牛動向といたしまして、4月下旬～5月中旬分娩が中心の動きとなりますが、4月分娩牛については年明け、すぐの動きがあったこともあり、品薄傾向にあります。価格については春産み需要による導入が本格化する時期でもあるため、上げ基調の動きになるものと思われます。先月と同じく雌雄選別腹の資源が少なく相場が変動する可能性はあるので情勢に注視していきたいと思います。経産牛につきましては、需要もありやや強含みと予測されます。
	初妊牛	47～57	↗	
	経産牛	30～40	↗	
帯広管内	育成牛(10-12月令)	20～30	→	帯広管内の1月中旬までの生乳生産量前年比は、帯広管内月計で94.7%、累計で99.5%の実績となっております。2月の初妊牛動向といたしまして、4月下～5月中旬分娩が中心となっています。初妊牛については、春分娩の資源が少なく道内でも導入の動きが活発になってきているため、やや強含みに推移すると考えられます。また、道内ギガファームの導入もあり、しばらくは引き合いが強くなると考えられます。経産牛につきましては先月同様に、資源は潤沢にあるため横這いで推移すると考えられます。
	初妊牛	50～60	↗	
	経産牛	23～33	→	
道北管内	育成牛(10-12月令)	15～25	→	道北管内の1月中旬までの生乳生産量前年比は、稚内管内月計で95.3%、累計で99.0%、北見管内月計で92.2%、累計で97.9%の実績となっております。2月の初妊牛動向といたしまして、4月下旬～5月中旬分娩が中心となっています。初妊牛ついては、資源頭数は前年並みにありますが、管内の動きとして新規就農による導入需要や春分娩に向けての更新需要があり、導入意欲が活発になってきているため強含みに推移すると予想されます。経産牛につきましても、初妊牛と同様の需要になると思われるためやや強含みに推移すると予想されます。
	初妊牛	45～55	↑	
	経産牛	25～35	↗	
道内総括	育成牛(10-12月令)	20～30	→	道内の1月中旬までの生乳生産量前年比は94.5%、累計で98.6%の実績となっております。日中でもマイナス気温が続き、冬の寒さが本番となっています。2月の初妊牛動向といたしましては、春分娩中心となり道内外ともに需要が高くなることが予想され、相場はやや強含みに推移すると思われます。資源については、地域差はありますが不足する傾向で、腹別でも特に雌雄選別腹が少ないことが見込まれています。都府県からの購買注文も増加してきており、徐々に購買意欲が回復していることが感じられます。引き続き相場の動きに注視していきたいと思いますが、導入を計画されている場合は、お早めにお近くの弊会担当者までご注文を頂きますよう宜しくお願い致します。
	初妊牛	47～57	↗	
	経産牛	25～35	↗	

今月の表紙

今月の表紙は「第12回酪農いきいきフォトコンテスト」に応募いただいた作品「たくさん食べて　おおきくなーれ」（佐賀県 早田千幸氏 撮影）です。

令和５年2月10日発行（毎月1回10日発行）
全酪連会報　2月号　No.689

●編集・発行人　岡田征雄
●発行　全国酪農業協同組合連合会
〒151-0053　東京都渋谷区代々木一丁目37番２号 酪農会館
TEL 03-5931-8003　https://www.zenrakuren.or.jp/

編集後記

●1月の大雪に伴い、被害に遭われた皆様に心よりお見舞い申し上げます。1日も早い復旧と皆様のご安全を心よりお祈り申し上げます。
新型コロナの「第8波」はようやくピークを越えたようですが、新たな変異ウイルスが国内でも検出されています。インフルエンザの同時流行も懸念されており、くれぐれも体調など崩されませんようご自愛下さい。
●会報に関するご意見・ご要望等があれば、以下のアドレスにメールをいただければ幸いです。
shidoukikaku@zenrakuren.or.jp

今月の らくのう こどもギャラリー 入賞作品紹介

一ぴきの牛

田村市立滝根小学校 6年（東北）　太田 一稀

今月の入賞作品は…

田村市立滝根小学校 6年 （東北）の太田一稀さんの作品です。

目にはプラスチックの義眼が使われ、鼻は細かい紙が貼付けられ、体毛はもふもふのファーの生地が直接貼られ、さまざまな質感が混在する作品でとても面白い絵に仕上がっています。絵画というより半立体作品と言えそうです。

※この作品は本会と全国酪農青年女性会議共催の「第48回らくのうこどもギャラリー」で全国205点の応募作品から入賞12点に選ばれたものです。

主催　全国酪農青年女性会議